パネル展
すごろクイズ「旅に出よう！」

ごあいさつ

　みなさん、こんにちは。ここは今から200年ほど前、江戸時代の旅人のへやです。

　実をいうとこの時代、ふつうの人が旅行に行くことは禁止されていたのですが、「お寺や神社にお参りする」という名目で、みんなあちこち旅に出かけていました。

　飛行機も電車も車も無くて、苦労することもあったけれど、やっぱり旅は楽しいもの。

　あなたも、このひと時、江戸時代の旅人になって、すごろくとクイズの旅を楽しんでみてください。

（実際の展示の一部を抜粋してご紹介します）

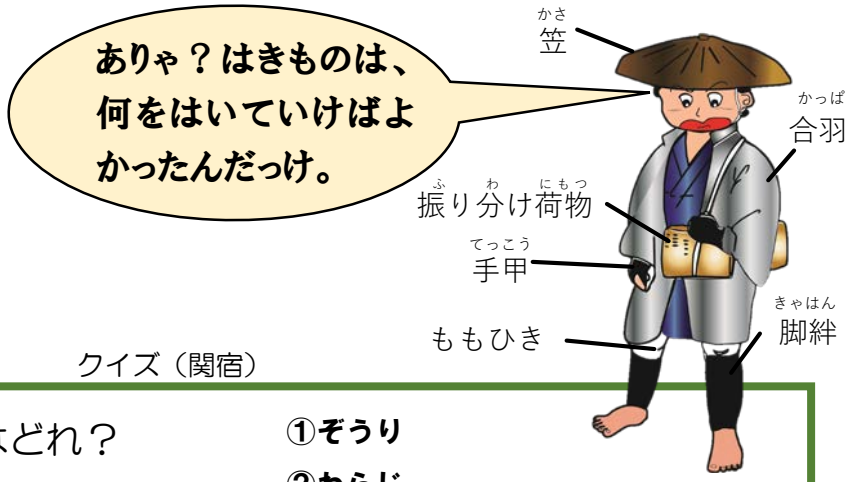
それではスクロールして
スタート

ふりだし

関宿から日本橋

江戸時代、江戸のまちと北関東一円・東北地方は、網の目の様にはりめぐらされた利根川水系の水運によってつながっていました。関宿は物流のターミナルとして大いに繁栄しました。関宿から江戸に出るのも、船なら一晩で着く便利さでした。

いよいよ関宿から京都に向かって出発でぃ！おっと、その前に旅じたくよ！まずは、手甲と脚絆をつけて、着物も裾は端折っておくだろ。そいから、荷物は肩の前後に振り分けて、笠もかぶって、と。



クイズ（関宿）

旅の時に履く、履物はどれ？

①ぞうり
②わらじ
③げた

こたえは② わらじ（草鞋）

ぞうり（草履）…脱ぎ履きしやすいふだん履き

わらじ（草鞋）…長い距離も歩きやすいよ

げた（下駄）…ぬかるみでも足が汚れない

歌川広重「東海道五拾三次」のうち

戸塚　元町別道

国立国会図書館デジタルコレクション

日本橋を朝、出発すると、戸塚のあたりが一泊目の宿泊地となります。画中では「こめや」という旅籠の店先で、元気のよい旅人が馬から飛び降りています。軒下には、伊勢神宮や大山阿夫利神社などの講中（仲間）看板が下がり、さまざまな社寺参詣者がここで宿をとっていたことが分かります。

そろそろ日も暮れてきたし、宿に泊まるとするか。おや、橋のたもとに何か立ってるな？

クイズ（戸塚）

「東海道五十三次」戸塚の図で、橋のたもとに立っている先のとがった石は、なに？

①夜道に迷わないための灯籠

②旅先で亡くなった人のお墓

③行き先を示す道しるべ

こたえは③　道しるべ（道標）

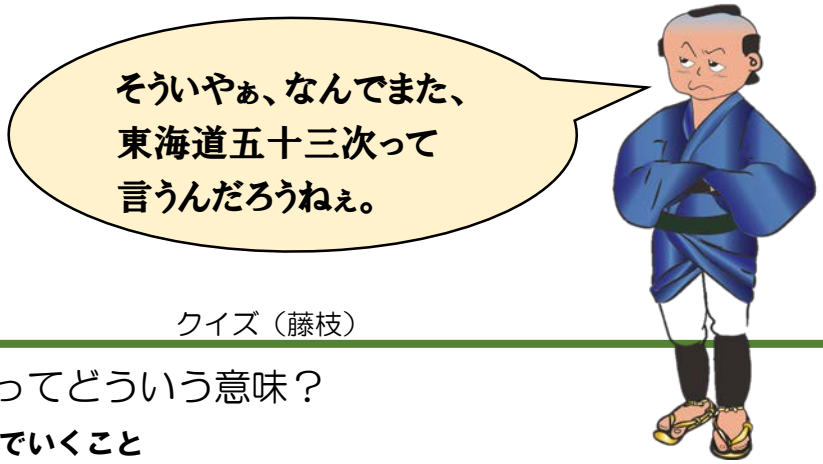
これは道しるべ。「左り かまくら道」って書いてあるよ。まっすぐ進めばそのまま東海道、左へ進めば鎌倉に出るんだね。ちなみに、道しるべの左側に立っているのは石灯籠。夜でも旅人が迷わないように明かりを灯したんだ。

歌川広重「東海道五拾三次」のうち

藤枝　人馬継立

国立国会図書館デジタルコレクション

日本では、古くから「伝馬」とか「駅伝」と呼ばれる制度が敷かれていました。公用の荷物を宿場（宿駅）から宿場にリレーのように引き継ぎながら運んでいくシステムです。この絵では、宿場の管理を行う問屋場で、荷物の確認をしながら人足と馬の引き継ぎ（継立）を行う様子が描かれています



クイズ（藤枝）

五十三次の「次」ってどういう意味？

①人や物を引き継いでいくこと

②次から次へ宿場が現れること

③急いで次へ進むこと

こたえは① 人や物を引き継いでいくこと

幕府や藩などの公式な用事で人や荷物を運ぶときには、宿場ごとに馬や人足を替えて、リレー式で継ぎ送りすることになっていたんだ。東海道は宿場が53あって、53回継ぎ替えるから「53次（継ぎ）」と呼ばれたんだ。

歌川広重「東海道五拾三次」のうち

御油　旅人留女

国立国会図書館デジタルコレクション

御油の宿場から次の赤坂までの距離は東海道で一番短く、わずか16町（約1.7㎞）。ここで旅人を逃すものか、と強引に客引きをする女達と、それを振り切り次に向かおうとする男達との攻防がユーモラスに描かれます。町の人々は「いつものことか」という顔で、高見の見物をしているようです。

クイズ（御油）

宿についたばかりのこの人は、
何をしようとしているの？

①お金を払う

②お酒を飲む

③足を洗う

こたえは③　足を洗う

昔の道は、アスファルトなどの舗装もなく、ほこりっぽい土の道。一日歩くと泥だらけになっちゃうから、宿に入る時は、まず足をすすいでから床に上がらなければならないよ。宿の人がたらいに水をくんで来てくれるんだ。

あがり

歌川広重「東海道五拾三次」のうち

京師　三条大橋

国立国会図書館デジタルコレクション

京の玄関口、鴨川に架かる三条大橋が東海道の終着点です。橋の上を歩く女性達も、どこか雅びな雰囲気で描かれています。但し、実際の三条大橋は木組みではなく石組みで、実際の風景とは異なっていたようです。

おまけクイズ

江戸時代のガイドブック『旅行用心集』から問題です。

これは伝説の獣、「白沢（はくたく）」ですが、旅人にとって、どのようなもの、とされたでしょうか。

①恐ろしい怪獣

②いたずらをする幻獣

③ありがたい聖獣

白沢の図

当館蔵

こたえは③ ありがたい聖獣

「白沢」は中国の想像上の聖獣。病気や災難を除けてくれるとされ、江戸時代にはこの絵姿を書き写して身に着けた旅人も多かったよ。